

かもしがいちちくだいにき
加茂市街地地区第二期
 (新潟県加茂市)

- 計 画 期 間 令和元年度～令和5年度
- 面 積 380ha
- 交付対象事業費 510.0百万円
- 市人口 25,390人

ポイント

北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを目指す。

地区概要

中心市街地の道路拡張事業に併せ歩道部分に不燃木材を使用した雁木づくりアーケードを建設するイベント等の受入収容量を確保するための多目的広場を整備する

目 標

- 1：小京都らしい風情の創出
- 2：山 ⇄ 市街地 ⇄ 役所周辺を結ぶ回遊性の創出
- 3：イベント等の受入の収容量の確保
- 4：災害に強いまちづくり

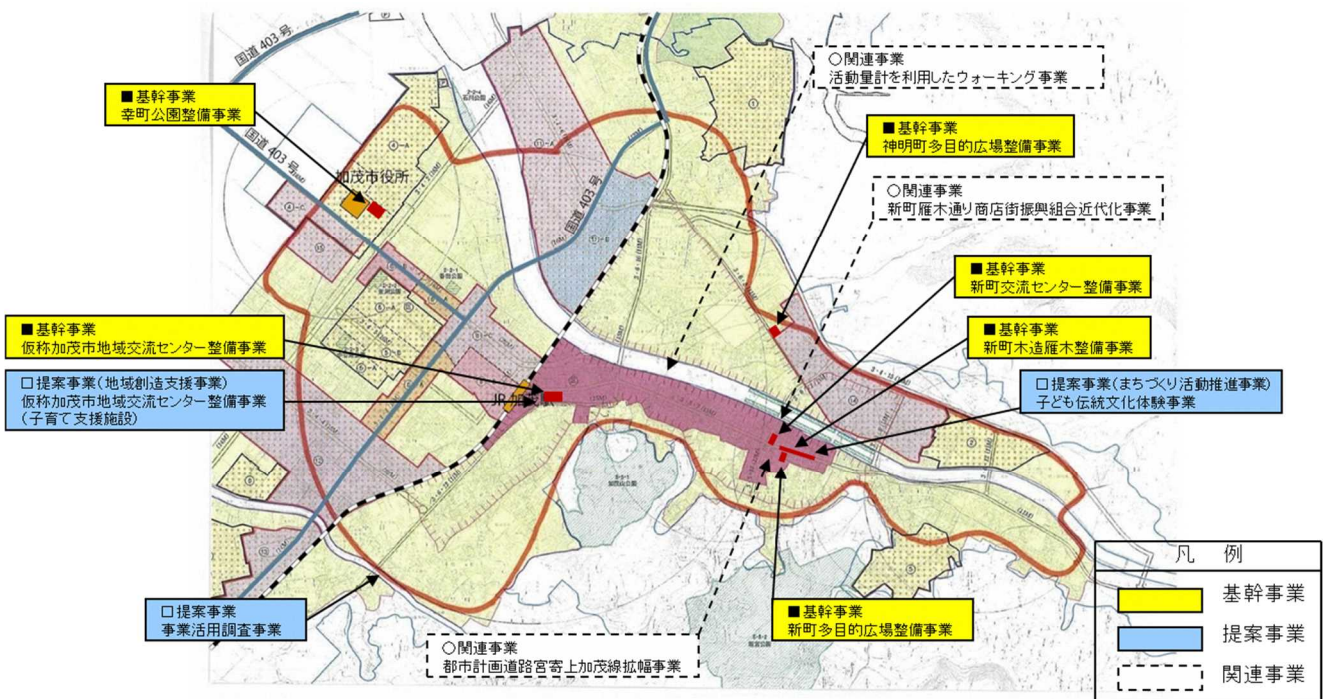
指 標

- ・新町雁木づくりアーケードの歩行者数を把握する
- ・新町多目的広場で開催するイベントの参加者を把握する
- ・区域内における避難困難者数を把握する
- ・商店街を歩くイベントの参加者を把握する

雁木における歩行者数	348人 (H30)	→	450人 (R5)
多目的広場でのイベントの参加者数	0人/回 (H30)	→	250人/回 (R5)
避難困難者数	390人 (H27)	→	0人 (R5)
健康ウォーク参加者数	302人/回 (R2)	→	500人/回 (R5)

事業内容

- 基幹事業 (470.0 百万円) → 公園 (1 か所)、地域生活基盤施設 (多目的広場 2 か所)、高質空間形成施設 (木造アーケード 240m)、既存建物活用事業 (交流センター2 棟)
- 提案事業 (40.0 百万円) → 地域創造支援事業 (交流センター子育て支援施設) まちづくり活動推進事業 (子ども伝統文化体験事業)、事業活用調査事業



地区の現況と課題

加茂市の市街地は、三方を山に囲まれ加茂川の清流沿いに形成された地域で、自然・風土・街の風情から「北越の小京都」と呼ばれている。

昭和 42・44 年の大水害で既成市街地に河川改修が実施され、その移転地として西地区に新たに市街地が形成された。

中心市街地は JR 信越本線加茂駅を表玄関としたメイン通りに 8 商店が連なり、駅から順に近代化事業が実施され現在、7 商店街目の新町街区で道路拡幅事業と商店街近代化事業が実施されている。

この市街地に点在する歴史的建造物等を保全し北越の小京都風情を持った魅力あるまちづくりと、近年の突発的な異常災害等に対して素早く対応できる都市基盤整備を進め安全で安心して暮らせる地域が課題となっている。

提案事業の特徴

まちづくり活動推進事業（子ども伝統文化体験事業）

加茂市の歴史や文化について次世代を担う子供たちに、伝統文化体験プログラムを社会実験として実施する。



多目的広場整備イメージ



紙すきの風景

計画策定プロセス

平成 17 年度から 21 年度において加茂川周辺地区都市再生整備事業で中心市街地に公共施設を配置し既成市街地の再生に取り組み、平成 20 年度から 24 年度では加茂市西部地区都市再生整備計画事業で避難道路の新設や公園、広場などの都市基盤施設の整備を行った。さらに、平成 26 年度から 30 年度では、加茂市街地地区都市再生整備計画で中心市街地での木造雁木整備や地域交流センターの整備、浸水対策事業を実施した。

現在、人口減少や空き店舗の増加など空洞化が進んでいるため更なる市街地の再生を求められていることから、第二期として木造雁木整備等を継続し実施している。



まちなかの灯りイベント

加茂市街地地区で
完成した木造雁木

